

「はむらの授業指針」教師の視点②

個別最適な学びがある

「個別最適な学び」とは、これまでも学習指導要領に位置付けられてきた「個に応じた指導」を学習者の視点から捉え直した概念です。答申では、「個別最適な学び」を「指導の個別化」と「学習の個性化」の二つに整理し、子どもが自己調整しながら学習を進めていくことができるようにすることの重要性を指摘しています。

「指導の個別化」は、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、子ども一人ひとりの特性や学習進度、学習到達度等に応じ、教師が重点的な指導や指導方法、教材等の柔軟な提供・設定を行うものです。

一方の「学習の個性化」は、子どもの興味・関心やキャリア形成の方向性等に応じ、教師が子ども一人ひとりに応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子ども自身が、学習が最適となるよう調整することです。

「指導の個別化」は、一定の目標を全ての子どもが達成することを目指して、異なる方法等で学習を進めることであるのに対し、「学習の個性化」は、子どもたち一人ひとりが異なる目標に向けて、学習を深め、広げることを意味します。

「個別最適な学び」では、子どもがICTを効果的に活用することにより、自ら見通しを立てたり、学習の状況を把握し、新たな学習方法を見いだしたり、自ら学び直しや発展的な学習を行いやすくなったりする効果が期待されます。情報の探索、データの処理や視覚化、レポートの作成や情報発信といった活動にICTを使うことで、学びの質を高め、深い学びにつなげていくことが重要です。



真のリーダーとは

京セラ名誉会長、KDDI最高顧問、日本航空名誉顧問 稲盛和夫

真のリーダーとは、人生において、ひたむきに仕事に打ち込み、その中で人格を高め続けているような人物ではないでしょうか。そのような人間であれば、リーダーとして権力を委ねられた後も、墮落することも傲慢になることもなく、集団のために自らを犠牲にして懸命に働き続けてくれるはずです。

出典：「稲盛和夫一日一言 運命を高める言葉」（稲盛和夫著 致知出版社）

※ 仕事に打ち込むことで、自らの人格をも高めようとするリーダー、実に魅力的です。